

## 2019年度「ふくしま元気市民活動助成金」 「のっぽ基金助成」決定！！採択団体紹介



昨年10月と11月に2019年度「第11回ふくしま元気市民活動助成金」と「第6回「のっぽ基金助成金」の審査があり、右の団体が選ばれました。

それぞれ6団体の応募がありましたが、採択に当たって付帯意見が出された団体があるなど、地域に密着した取り組みに期待する審査委員の皆様のご意見を反映する結果となりました。助成を受けられた団体の皆様には、この助成金を有意義に使って頂きたいと思っております。

また、2018年度に「のっぽ基金助成金」を受けられた団体から、事業が出来なくなったとのことで返金がありました。経緯を伺うと法的に越えなければならない壁が高かったとのこと。なお、返金を受けたお金は、現在、新型コロナウイルス対応市民活動団体緊急助成金の原資として使用しております。詳しくはHPをご覧ください。(参考URL: <http://f-npo.jp/>)

### ◆「ふくしま元気市民活動助成金」

- 表郷ボランティアネットワーク  
“みんなで、SDGsを学ぼう！”
- 特定非営利活動法人環境地域文化エナジー  
“会津の地域食文化と地域食材を活かした移住推進事業”
- 特定非営利活動法人みどりと花の大地学園  
“春一番の花見祭り”

### ◆「のっぽ基金助成」

- 特定非営利活動法人 POMk Project  
“東北地域の子供を対象にした健康教育の仕組み作り”
- Life for Mothers  
“ままのわプロジェクト”

(ふくしまNPOネットワークセンター  
副理事長 菅野 真)

#### —福島県より受託、運営している施設—

##### ●ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F  
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741  
URL <http://www.f-npo.jp/saposen/>  
E-mail [saposen@f-npo.jp](mailto:saposen@f-npo.jp)

#### —福島県より受託、運営している施設—

##### ●ふるさとふくしま交流・相談支援事業 事務局

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち4F  
TEL 024-529-7150 FAX 024-529-7153  
E-mail [furufuku@ff-shien.jp](mailto:furufuku@ff-shien.jp)

#### —福島市の指定管理制度で運営している施設—

##### ●福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち3F  
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560  
URL <http://www.f-ssc.jp>  
E-mail [f-ssc@bz01.plala.or.jp](mailto:f-ssc@bz01.plala.or.jp)

#### —福島市より受託、運営している施設—

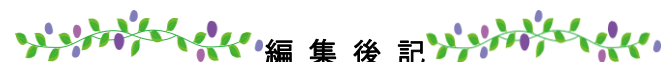
##### ●まちなか交流施設 ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20  
コラッセふくしま 1F  
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027  
URL <http://www.machi-fukushima.jp>  
E-mail [info@machi-fukushima.jp](mailto:info@machi-fukushima.jp)

#### —福島市より受託、運営している施設—

##### ●まちなか交流施設 ふくふる

〒960-8035 福島市本町 2-6  
TEL 024-524-3717 FAX 024-525-8156  
E-mail [f.machinaka@gmail.com](mailto:f.machinaka@gmail.com)



#### 編集後記

・入職して11年目にして、初めて「のっぽの手」に関わらせて頂きました。3.11から10年目、新型コロナウイルス問題、厳しいNPOの現状と一緒に乗り切りたいものです。

(ふくしまNPOネットワークセンター 内山 愛美)

・コロナ禍の中「のっぽの手」編集に関わらせていただきました。20周年を迎えたネットワークセンターがこの難局を皆で乗り越えるという強い意志とNPOの使命を持って立ち向かう団結力を感じました。

(ふくしまNPOネットワークセンター 齋藤 美左子)

#### ●編集・発行

認定特定非営利活動法人  
ふくしまNPOネットワークセンター  
〒960-8041  
福島市大町 4-15 チェンバおおまち4階  
TEL 024-572-7930 FAX 024-572-7931  
E-mail [center@f-npo.jp](mailto:center@f-npo.jp) URL <http://www.f-npo.jp/>



# のっぽの手

「2020年度を迎えて」  
ネットワークセンター  
「事業報告」

2020年 7月発行

## 2020年度を迎えて



本年6月、ふくしまNPOネットワークセンターの新年度は、コロナ禍の中でのスタートとなりました。福島市市民活動サポートセンター(ふくサポ)、ふくしま情報ステーション、福島市まちなか交流施設(ふくふる)は、いずれも一時閉鎖となり、職員も不安な日々を過ごしました。緊急事態宣言の解除によって、業務は正常化されつつありますが、感染症との長い付き合いを覚悟しなければならないのは、多くのNPOと同様、私たちもまた例外ではありません。

そんななかで、中間支援組織としてできることを考え、県内のNPOを対象として電話による聞き取り調査を行い、その内容を反映させた要望書(「NPO及び多様な市民活動の存続の支援に関する要望書」)をまとめ、他の中間支援団体の賛同を得て、連名にて福島県知事と福島市長に提出しました。また、急遽、「新型コロナウイルス対応市民活動団体緊急助成金」を創設しました。これは運転資金がショートし破綻の危機に直面している団体、弱者支援のために新たな事業を展開しようとしている団体などを対象に、少額(上限9万円)ながら自由度の高い助成金を提供することを目的とするものです。予想以上のペースでの助成金申請があり、そのこと自体がNPOの苦境を物語るだけに、素直に喜ぶことではないのですが、中間支援組織としての責任の一端を担うことができたものと考えています。

さて、2020年度もネットワークセンターは、①中間支援NPOとしてのミッションを確認しながら、県や市の委託ないし指定管理として、②ふくしま地域活動団体サポートセンター(サポセン)、③ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局(ふるふく)、④ふくサポ、⑤情報ステーション、⑥ふくふるの運営を担うとともに、⑦ふくしま市民活動フェスティバルの事務局、⑧助成金事業(のっぽ基金助成金、ふくしま元気市民活動助成金)などに着実に取り組んでいきたいと思っております。

会員のみなさん、今年度もご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

(ふくしまNPOネットワークセンター 理事長 牧田 実)

## 大規模災害・新型コロナウイルスを共に乗り越える



中間支援NPOとして、ここ数年の福島県内外で多発する大規模自然災害を目の当たりにし、その対応にキチンと向き合う必要があると感じておりました。

そんな矢先の昨年10月に台風被害があり、福島県内でも多数の建物が河野氾濫等により浸水被害を受けました。そこで、11月上旬に被災に遭われたNPO向けに「ふくしま元気・災害支援助成金」を立ち上げ、少額とはいえ使い勝手の良い仕組みにして運営を開始しておりました。これは引き続き、新型コロナウイルスの感染によって緊急に支援が必要となった社会的弱者を支援する活動に対して助成する「新型コロナウイルス対応市民活動団体緊急助成金」として募集しております。既に多くの非営利団体へ助成しております。詳細はHPをご覧ください。

また、ふくしま地域活動団体サポートセンター 内山所長が先頭に立って、岡山県の事例を参考にしながら災害時における支援物資の配給の仕組みを立ち上げました。地方公共団体には出来ない民間ならではの支援の仕方で、福島県内のNPOへの支援はもとより地域住民の方々へ出来るだけのことをしていきたいと考えております。これらの助成金や支援には原資が必要です。趣旨にご賛同いただき、寄附にご協力をいただきたく、心よりお願い申し上げます。

(ふくしまNPOネットワークセンター 副理事長 菅野 真)



## ネットワークセンター事業報告:

# 福島市市民活動サポートセンター

台風の被害があり、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて締めくくった 2019 年度。NPO への伴走のあり方や中間支援のあり方がますます問われています。そんな中、2 度目の指定管理運営の 1 年目を終了しました。

昨年度の来館者は 44,385 名、会議室等の稼働率も 50% を超え、相談・問合せは 1,763 件と年々増加の様子をみせています。目標とする「頼られるふくサポ」に向けて一歩ずつ階段をのぼれているのでは？と自負しているところです。

### ★震災から 9 年以上経過して

東日本大震災直後、様々な助成金や育成プログラムが福島を含む被災地で展開された。ふくサポでも、住友商事さんから支援を受けた NPO 活動を体験するインターンシップや武田製薬さんの支援を受けた NPO 経営者ゼミを実施している。

インターンシッププログラム、NPO 経営者ゼミから、学生や経営者の伴走をする中で様々な育成経験を学んだ。また、連携や NPO 団体との密な関係を築けてきている。

それらは現在、ふくサポの財産となり、今後のサポートにどう活かすか試行錯誤の日々である。

### ★これから・・・

昨年、台風 19 号にみまわれた福島。予想外の大きな被害を受けた。3.11 の被害や支援を経験したのに・・・思うように動けない実態に反省し、未来を見据え、登録団体交流会を活用したネットワークづくりの企画や様々な支援に対応できる講座の企画などを再検討している。またスタッフの人材育成面でも大和証券さんの助成金を獲得し、学びの場を意識している。

2020 年、新型コロナウイルスの感染拡大で思うように企画し、実施することができない現状であるが、困難な課題があるからこそ、役に立てるふくサポでありたいと強く思う。

(福島市市民活動サポートセンター  
所長 内山 愛美)



## ネットワークセンター事業報告:

# ふくしま地域活動団体サポートセンター

約 920 の NPO が設立されている福島県。その課題は様々である。課題に寄り添うため、サポセンでは「相談対応」「情報発信」「基礎力・応用力養成講座」「組織力養成講座」「各地の中間支援センターとの情報交換会」「有資格者による会計や労務の相談」などを行っている。県内全域を対象とするため、現場に限りなく近い支援は難しい。その分、地域の支援センターでは難しい多様な視点・広い視野を心掛けている。

今多くの課題を NPO が持ち、新たなステージへの転換期にきているのかもしれない、と感じている。

### ★インターンシップから感じること

実施から 5 年が経過したインターンシップ事業。多くの修了生が巣立った。

NPO に就職した修了生や福島に何らかの形でこだわりながら関わる修了生が増えている。これこそが、成果の 1 つだと考えている。

### ★マッチング事業

NPO と企業が協働の形で事業を行うマッチング事業。昨年も 26 の NPO と 15 の企業がチャレンジした。うまくマ

ッチングできる事業とそうでないものがあるが、協働事業を行った数年先、新たな継続事業を生み出している姿もみることができるようになっていく。福島の未来に明るい兆しを感じている。

### ★ふるさと・きずな維持・再生支援事業

東日本大震災からの復興を目的とした補助事業だが、昨年度も採択された 24 の事業が実施された。地域を巻き込んだ多くの方々がかわる事業や継続事業の中であきらかな進展を感じるものなど印象的な事業もある。

今後は、帰還住民たちの孤立化・分断などをどのように解決していくかが課題となるのではないかと感じている。

### ★今後の取り組み

新型コロナウイルス感染の拡大により、事業の見直しや事業スタートの遅れも生じているが、様々な視点を持ち、立ち位置を変えながら柔軟に伴走する姿勢が求められているということを銘記し、事業展開していきたい。

(ふくしま地域活動団体サポートセンター  
所長 内山 愛美)

## ネットワークセンター事業報告:

# ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局



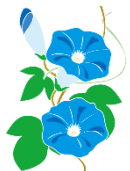
本事業事務局では、福島県が実施する全国の避難者・帰還者支援団体を対象とした「ふるさとふくしま交流・相談支援事業補助金」の事務業務を行っており、「県外避難者帰還・生活再建支援補助金」、「県内避難者・帰還者心の復興事業補助金」の 2 つの補助金の事務局としての業務を行っております。

令和元年度は、6 月 1 日からの事業開始にあたり県内外 95 の全採択団体を対象とした事務説明会を福島市内において開催し、事業実施の留意点や会計整理の説明をおこないました。出席された採択団体の皆様は真剣に耳を傾け、説明会終了後にはお互いの支援活動や取組みについて支援団体同士の交流を図っている様子でした。

7 月からは、全国の採択団体を訪問し、事業実施状況や事業会計の整理状況の現地確認を実施、11 月には中間報告、3 月には実績報告として実施期間中の会計報告書類の精査をおこないました。4 月からは、令和 2 年度の申請書類の確認作業と審査資料の作成をおこなったところです。

## ネットワークセンター事業報告:

# まちなか交流施設 ふくふる



まちなか交流施設は、福島市本町(駅前通り・パセオ通り交差点、まちなか広場向い)にある福島市の施設です。2019(令和元)年 5 月に開館した後、市民の皆さんが参加する運営協議会での協議を経て内装工事等を行い、2020(令和 2)年 3 月にリニューアルオープンをしました。愛称“ふくふる”も公募により選ばれたものです。

まちなか交流施設のコンセプトは「まちをもっとおもしろく!」。館内は飲食可能で、休憩や待合せ・打合せなど、予約なしで自由に利用できます。まち歩きや仕事のお昼休み、ノマドワークや自主勉強に活用したり、おもちゃや授乳スペースもありますのでお子様連れにも対応しています。館内の交流エリア、展示スペース、多目的ルームについては、作品展やイベント、講座・講演などのため、予約して専有使用することもできます。人と人との接点やつながりを意識しつつ、例えば展示スペースと交流エリアの複合的な活用や、その後の展開を臨んだ進化・発展系の企画など、「化学変化」をもたらす使い方を市民の皆さんとともに実践していきたいです。

採択団体への訪問では、震災から時間が経過した現在、避難者・帰還者のニーズや支援のあり方についての課題や問題の個別化・複雑化が一層進んでいることがわかりました。その一方で、避難者・帰還者の方から本補助金を使用し支援を続けてくれている団体への感謝の言葉や思いが、継続して支援活動をしていく力になるようでした。

その様な中、台風 19 号による甚大な被害や、新型コロナウイルス感染拡大などにより各交流会等が中止となり、支援団体をはじめ参加を心待ちにしていた避難者・帰還者の方にもさまざまな影響が及び、今後の支援団体の課題がさらに積み重なることが予想されます。

これまでにない変化を求められる中、支援団体同士のネットワークの拠点となる中間支援組織として、引続き避難者支援団体の活動の支援に取り組んでいきたいと思

います。  
(ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局  
所長 渡邊 久美子)

リニューアル工事による休館の期間中に、ふくしま NPO ネットワークセンターのスタッフは研修を行いました。類似施設の視察訪問とワークショップを行った結果、私たちが今もっとも取り組むべき課題は「集客力の量・質的向上」と設定されました。またそのために必要なこととして、お客様対応力の向上や地域とのつながり強化等、施設の「ベースになる環境づくり」をはかると同時に、「一人で過ごせる場所づくり」「いつものみんなで集う場所づくり」そして「新しいきっかけを生む場所づくり」をキーワードに、今後の管理運営に取り組んでいきたいと考えています。誰でも親しみやすく、使いやすい施設であると同時に、訪れる人に気づきやきっかけを与え、共感やつながりを生みだす。まちなか交流施設の管理運営を通じて、そのような中間支援の役割を果たしていきたいと思

(まちなか交流施設 ふくふる  
所長 加藤 麻子)



## ネットワークセンター事業報告:

# まちの駅ふくしま情報ステーション

令和2年度が始まったばかりの4月13(月)よりコロナウイルス感染拡大防止を目的として、ふくしま情報ステーションが閉館となりました。そのため、4月の来場客数は昨年度比、約4800人減となっております。閉館中は館内のレイアウトの変更やパンフレットの確認・精査などを行いました。現在、絶賛放映中の「エール」のコーナーやまちの駅ネットワークふくしまのコーナーなどを設け、一人でも多くのお客様に情報をご覧いただいたり、パンフレットを持ち帰っていただきやすいような配置にいたしました。

緊急事態宣言解除後の5月17日(日)から再開しておりますが、お客様に、以前のようにご利用いただくにはもう少し時間がかかるような感じがしております。状況に鑑み、令和元年度のまちの駅駅長会議の定時総会は書面評決となりました。影響は全国的に様々な部分にもおよんでおり、今年8月に開催を予定していた第23回まちの駅全国大会 in 見附も来年度に延期となりました。

イベントの中止や延期なども続いておりますが、数が少なくても正確な情報をお客様にお伝えしていくように心がけていきたいと思っております。

まちの駅ネットワークふくしまは、4月にまちの駅アオウゼが仲間入りし、現在はふくしま情報ステーションを含めて22ヶ所となっております。まちの駅ネットワークふくしまの駅でも閉館・休業がりましたが、現在ではすべての駅で再開となっております。

令和2年度の活動では、SNSを活用して情報発信することを通して、更なるネットワークの強化を目指します。皆様にまちの駅の活動を知っていただけるように情報の共有・集約をして、まちの駅から福島の今を発信していきたいと思っております。

(ふくしま情報ステーション

所長 野地理恵子)

## 県内NPO団体の新型コロナウイルスによる活動内容の影響に関するアンケート

(全8項目中5項目のみ抜粋)

2020年4月実施アンケートより

### アンケート

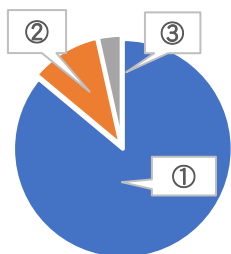
4月に新型コロナウイルスの影響について県内NPO団体の皆さんにお聞きしました。

学童保育など子ども支援を行う団体については学校の休校などの影響で、スタッフの疲弊もみられ、商品販売を行っている団体は「イベントができない」「お店を閉めなければならない」などの影響が出始め、不安から相談が多く寄せられていました。

1. 新型コロナウイルスの感染拡大により、「活動内容」に影響はありますか

①	現在影響が出ている	74
②	今後影響が出ると思う	9
③	当面影響は出ないと思う	3
④	わからない	0

86



3. 新型コロナウイルスの感染拡大により、法人(団体)の経営に影響はありますか

①	現在影響が出ている	71
②	今後影響が出ると思う	7
③	当面影響は出ないと思う	8
④	わからない	0

86



4. 3で現在影響が出ていると答えた方にお尋ねします。具体的な内容についてあてはまる内容を選択してください。

(複数回答可)

①	商品やサービスなどの売り上げ・受注の減少	28
②	製品やサービスなどの売り上げ・受注の増加	0
③	顧客や利用者の減少	34
④	委託費や補助金の減少	6
⑤	出勤抑制や休校などによりスタッフの確保が困難	6
⑥	その他	12

86

5. 特に必要な支援策について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

①	資金の支援	46
②	物資の提供	4
③	食材の提供	8
④	わからない	28
⑤	その他	0

86

8. 主な活動地域をおしえてください。

①	福島県内全域	2
②	県北地域	45
③	県南地域	6
④	県中地域	23
⑤	会津地域	5
⑥	浜通り	4
⑦	その他	1

86



## 新型コロナウイルス対策資金情報



保健・医療又は福祉、災害救助

### 新型コロナウイルス感染症の拡大防止策に対する支援／公益財団法人 JKA

助成対象：『2020 年度補助方針』における「緊急的な対応を必要とする事業」で定められた事業で、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止で命を支える支援・援護活動及び啓発事業や物資の整備事業、または購入、管理、輸送、供与又は貸与に関する事業で、法人格を有する法人。

応募期間：令和2年5月11日(月)から令和2年度内で随時募集

参考 URL：[https://hojo.keirin-autorace.or.jp/news/wp-content/uploads/2020/05/COVID-19\\_overview.pdf](https://hojo.keirin-autorace.or.jp/news/wp-content/uploads/2020/05/COVID-19_overview.pdf)

保健・医療又は福祉、子どもの健全育成

### 新型コロナウイルス感染拡大による特別活動支援金／公益財団法人ウェスレー財団

助成対象：日本国内で新型コロナウイルスの感染拡大により生じる緊急支援、ならびに人道支援(社会的弱者に対する支援、社会福祉向上、児童又は青少年の健全な育成など)に取り組む団体(法人格の有無は問わない)

応募期間：令和2年4月13日(月)から期限なし(ただし令和3年3月31日までに実施される事業であること)

参考 URL：<https://wesley.or.jp/program/news/post-17.html>

NPO 法人、一般社団法人、一般財団法人が受けられる新型コロナウイルス対策のための資金調達について

### 認定 NPO 法人 NPO 会計税務専門家ネットワーク

助成手段：融資を受ける、納税を繰り延べる、休業補償のための助成金を受ける、収入減少を補填するための給付金を受ける

参考 URL：<https://npoatpro.org/user/news/22/euh19wkag4q1tsga6l22-p9mnn7fji9g.pdf>

新型コロナウイルス対応市民活動団体緊急助成金

### 認定特定 NPO 法人ふくしま NPO ネットワークセンター

助成対象：新型コロナウイルス感染拡大に影響を受けた、福島県内で社会的弱者とされる方々を支援している NPO 等の団体に、緊急に助成金を支給します。

参考 URL：<http://f-npo.jp/>



寄付のお願い

所在地	主な活動分野	2020年4、5月の収入の増減(対前年比)
福島市	復興支援	300万円から150万円に
福島市	まちづくり	10分の1程度に減
福島市	子ども支援	少し増
福島市	福祉(B型作業所)	85%の減
伊達市	子ども支援	4月20%増5月70%減
郡山市	子ども支援	少し減
会津美里町	中間支援	変化なし
南相馬市	中間支援	変化なし
いわき市	国際協力	3分の1の収入
福島市	国際協力	3分の1の収入

### 県内 NPO 団体の新型コロナウイルスの感染拡大による収入の影響

(5月聞き取りによる)

昨年の4～5月の収入に比べて、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた今年の4～5月の収入の状況をお聞きしました。

左表は実際にお聞きした状況を抜粋したものです。また、新型コロナウイルスの影響で支援が増えた団体もあり、活動の分野や内容により状況が変わるようです。